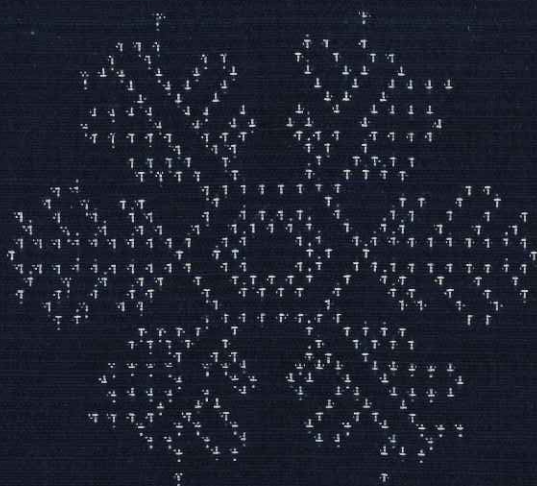


塩澤町史

資料編

上巻



目次

口 絵

発刊のことば

塩沢町長 上 田 欽 一

刊行に寄せて

塩沢町史編集委員長 細 矢 菊 治

凡 例

第一編 先史・古代

第一章 氷期を生きた狩猟民

4

第一節 旧石器時代の環境

4

一 赤土（ローム）に残された時間の記録

4

二 旧石器時代人の活躍した舞台

6

第二節 旧石器時代人の活躍

8

第三章 遺物集成

14

第二節 ブナの森の縄文人

18

第一節 縄文の森

18

第二節 縄文の村

20

一 村の風景

20

二	縄文時代中期集落の規模と立地……………	27
三	すまいの様子……………	32
第三節	縄文人の食……………	32
一	食糧の獲得……………	32
二	調理と貯蔵……………	42
第四節	縄文人の交流と交易……………	50
第五節	縄文の精神文化……………	54
一	縄文人の装い……………	54
二	縄文人のマツリ……………	56
第六節	資料集成……………	62
一	郷土史研究の集まり『金城会』の活動と資料……………	62
二	近年に調査された遺跡資料……………	86
第三章	山里の農耕民……………	152
第一節	山里の丘と谷そして湧水……………	152
第二節	弥生人の生活……………	154
第四章	山里に出現した地方豪族……………	170
第一節	古墳時代前夜の越後……………	170
第二節	古墳出現期の越後……………	171
第三節	伊乎乃郡の古墳……………	172

第四節	吉里・南山古墳群の構造と出土品……………	174
第五章	古代の魚沼郡……………	192
第一節	大和政権と魚沼……………	192
第二節	山里の開発と農民の暮らし……………	193
一	魚沼郡の変遷……………	193
二	遺跡の分布からみた魚沼郡の郷……………	202
三	村と家……………	204
四	生活用具……………	206
五	生産と徴収……………	208
六	塩沢町で見られる遺物……………	213
第三節	荘園の成立とその展開……………	218
第二編	中世……………	
解説	……………	225
第一章	鎌倉・南北朝時代の南魚沼……………	230
第二章	室町時代の南魚沼……………	235
第三章	戦国乱世と上田長尾氏……………	263
第四章	上杉景勝と上田衆の活躍……………	330
第五章	中世びとの生活と信仰……………	394

第一節	武士の館・屋敷と山城……………	394
第二節	物が語る中世の交易と生活……………	404
第三節	物が語る中世の信仰……………	408
第四節	資料集成……………	429

第三編 近世Ⅰ

第一章	近世前期の塩沢……………	441
第一節	史料からたどる塩沢の歩み……………	441
第二節	慶長・元和期の検地―雲洞村と塩沢村―……………	630
第三節	元禄期の流通―八木沢番所の通過荷物―……………	677

第四編 文化

概説……………	695
一 はじめに……………	695
二 学問・文化の変遷……………	695
第一章 学問・教育……………	701
第一節 学問……………	701
第二節 教育……………	706
第三節 郡外遊学者……………	735

第二章 文芸……………	738
第一節 俳句……………	738
第二節 紀行文・隨筆……………	777
第三節 漢詩文……………	789

執筆者一覧……………	795
資料提供・協力者一覧……………	796
編集作業協力者一覧……………	796
町史編さん関係者名簿……………	797
引用・参考文献……………	(1)

古代細目次

第五章 古代の魚沼郡

- 一五〇七世紀ころ 大和政権は日本海側にも支配を拡大し、高志国造・久比岐国造・高志深江国造・佐渡国造などを置いた。……………192
- 二 七世紀初めころ 長崎の真言宗大福寺ができた、と伝える。……………193
- 三 文武元年（六九七）十二月十八日 中央政府は越後の蝦夷に物を与え、このころ越後の蝦夷を服属させた。……………194
- 四 大宝二年（七〇二）三月十七日 越中国の四郡（頸城・古志・魚沼・蒲原）を分割し、越後国に所屬させた。……………194
- 五 慶雲三年（七〇六）閏正月五日 猪名真人大村が越後守に任じられた。……………196
- 六 養老元年（七一一）六月十四日 雲洞の藏王権現と雲洞庵ができた、と伝える。……………196
- 七 養老元年（七一一）雲洞の金峰神社は大和国吉野金峰神社より勧請したものである、と伝える。……………196
- 八 延暦九年（七九〇）三月十日 坂上田村麻呂が越後守に任じられた。……………197
- 九 大同二年（八〇七）宮野下の石打神社が建立された、と伝える。……………197
- 一〇 延長五年（九二七）十世紀前半に完成した延喜式の神名部分に、越後国魚沼郡の五社が記された。……………197
- 二 延長五年（九二七）延喜式の民部省関係部分に、魚沼郡をはじめ越後国の七郡が記された。……………198
- 三 延長五年（九二七）十世紀前半に成立した和名類聚抄に、魚沼郡をはじめ越後国の七郡が記された。……………198
- 三 十世紀前半ころ 和名類聚抄に地方行政区画の末端の単位である郷が記され、魚沼郡

は四つの郷からなっていた。……………199

二四 十世紀前半ころ 高山寺本「和名類聚抄」七にも同

様に魚沼郡の四つの郷が記されて

いる。……………199

二五 長保五年（一〇〇三） 長崎の天満宮は筑前国大宰

府天満宮を勧請して創立された、

と伝える。……………199

二六 長和元年（一〇二二）ころ 思川の実際庵（のちの

天昌寺）ができた、と伝える。……………200

二七 寛徳二年（一〇四五）二月 君沢の真言宗葉照寺が

できた、と伝える。……………200

二八 永保年間（一〇八一―八四） 長崎の槻岡寺の観音

堂ができた、と伝える。……………200

二九 永保年間（一〇八一―八四） 目来田の上田神社を

木雷殿大明神とよんでいた、と伝

える。……………200

三〇 保元二年（一一五七）三月二十九日 平正弘の所領

であった魚沼郡殖田村が後白河上

皇の所領となった。……………218

三 養和元年（一一八一）七月一日 城助職が義仲軍追

討のため信濃へ進攻するが、源義

仲はこれを破り越後へ侵入した。…219

三 養和元年（一一八一）七月二十日 三郎丸の二荒山

社は城資長が越後の国守の時、下

野国二荒山大神を分霊し三郎丸に

鎮座したものである、と伝える。…221

三 養和元年（一一八一）八月十五日 平氏政権は平

（城）助職を越後守に任じた。……………221

二四 養和年間（一一八一―八二） 泉盛寺の四所社が建

立された、と伝える。……………221

中世細目次

第一章 鎌倉・南北朝時代の南魚沼

一 文治二年二月 越後国に上田荘をはじめ年貢未納

の荘園が多く存在していた。後白

河上皇は幕府に年貢納入の督促を

するよう求めた。……………230

二 文治二年七月

五郎丸の諏訪神社は坪野大輔定明、大江西定行兩人が信濃国諏訪大神を勧請し鎮守とした、と伝える。……231

三 建久年間

雲洞の二所神社は住心坊宝教院という者が富士山巻狩の際疫病を平癒し、鎌倉八幡宮でお祭りの後帰国、そして雲洞で新殿を造立、創立した、と伝える。……231

四 建仁年間

五郎丸の白山社は加賀国白山大神を勧請し、白山浦に石祠を安置した、と伝える。……231

五 延慶四年三月

光明真言を種字で刻んだ石製塔婆がつくられた。……232

六 文保元年五月

ウン（阿闍如来）の種字を刻んだ石製塔婆がつくられた。……232

七 文保六年三月

文保六年の年号が刻まれた供養塔がつくられた。……332

八 暦応四年六月

上杉憲顕は越後上田荘に侵攻し、関（塩沢町）・夢崎（小出町）の

九 康永三年十月

合戦で南朝方を破り、ともに戦った上野国の地頭小林重政の着到状に証判を与えた。……233

一〇 貞治三年十一月

上田荘や妻有荘で石河妙円・光親の兄弟が軍忠に励んだことを、上杉憲顕が認証した。……233

二 嘉慶二年一月

阿弥陀三尊と思われる種字が刻まれた石製塔婆がつくられた。……234

第二章 室町時代の南魚沼

三 明德四年十一月

所領安堵状紛失のため、幕府は上杉憲方に対し再度上田荘三分の一や千屋郡国衙職等を安堵した。……235

三 明德五年二月

所領安堵状紛失のため、幕府は上杉憲方に対し再度上田荘や出羽国大泉荘を安堵した。……235

四 応永三年七月

越後国の国衙領の半分や上田荘・

五十公郷の欠所分などを上杉憲定

に相続するよう、幕府は上杉房方

に命じた。……………236

一五 応永九年九月

石打大明神に奉納するための鰐口
がつくられた。……………236

一六 応永十一年

上野の臨済宗関興寺ができた、と
伝える。……………236

一七 応永十七年三月

白崖宝生が関興庵を建立した。……………237

一八 応永十八年八月

越後居多神社の社務花前氏が、越
後国の各郡内にある社領の検注を
行った。……………237

一九 応永二十七年

上杉憲実が雲洞庵を再興し開基と
なった。……………237

二〇 応永二十七年

上杉憲実が雲洞庵を再興した。……………238

二一 応永二十七年

樺野沢の臨済宗龍沢庵ができた、
と伝える。……………238

二二 応永三十年十一月

応永の大乱に際し、鎌倉公方足
利持氏は下野国の長沼淡路入道
に、上杉憲実の代官を助けて上田

莊を鎮撫するよう命じた。……………239

三三 応永三十三年六月 白崖宝生の画像讃がつくられ
た。……………239

三四 応永三十四年七月 「応永卅四年七月二日」の銘文
を刻んだ鰐口が、江戸時代の明和
二年（一七六五）に再製された。……………239

三五 応永三十四年

清水の富士神社の鰐口は応永三十
四年から掛けている、と伝える。……………240

三六 応永年間

樺野沢の三嶋社は上杉謙信の養子
三郎が守護してきた尊像を宮殿に
安置し、清長寺の鎮守とした、と
伝える。……………240

三七 応永年間

上田荘の関郷が北野神社の社領で
あった。……………240

三八 応永年間

塩沢の臨済宗徳昌寺ができた、と
伝える。……………241

三九 応永年間

樺野沢の臨済宗清長寺ができた、
と伝える。……………241

四〇 応永年間

南田中の臨済宗大儀寺ができた、
と伝える。……………241

四一 応永年間

四二 応永年間

と伝える。……………241

三 永享二年

三 享徳四年二月

つくられた。……………247

吉山新田の熊野社は、和歌山の吉井杉右衛門という者が吉山新田に住居し創建したものである、と伝える。…241

三 文安元年六月

雲洞庵の寺領に關係する年貢帳がつくられた。……………242

四 長祿三年三月

石清水八幡宮神人の違乱により幕府は上田荘に散在する若宮社領を没収したが、もとにもどすよう幕府は上杉房顕に伝えた。……………248

三 文安元年八月

上杉憲実は次男上杉房顕に上田荘及び国衙の半分の所領を譲り与えた。……………243

四 年不明

京都の聖護院は上野国府の大蔵坊を、上田荘の長尾房景が熊野参詣に行く際の先達職と決めた。……………248

三 文安元年八月

上杉憲実は次男房顕に越後知行分の所領文書目録を添えて、上田荘及び国衙の半分の所領を譲り与えた。……………243

四 寛正元年四月

上田荘の長尾房長は那智山実報院に対し、近年中に熊野参詣を成し遂げたい旨申し伝えた。……………249

三 文安年間

雲洞庵の寺領に關係する年貢帳がつくられた。……………244

三 文安年間

雲洞庵の寺領に關係する年貢帳がつくられた。……………245

四 寛正元年四月

將軍足利義政は尻高新三郎に対し、上野国海老瀬口・羽継原で足利成氏方と戦い、戦功をあげたことを褒めた。……………249

三 文安年間

雲洞庵の寺領に關係する年貢帳がつくられた。……………246

三 文安年間

雲洞庵の寺領に關係する年貢帳が

た。……………249

四 寛正四年八月

尻高亀鬼丸は養父新三郎の菩提を弔うため長慶庵を建立し、上田莊早河郷北方及び大窪の土地を寄進した。……………250

四 寛正四年

大木六の長慶庵（のちの龍泉院）ができた、と伝える。……………250

四・四 文明三年三月

長尾・細矢・今井の三名が施主となり法林庵を造立し、在天和尚を開基としてむかえた。……………251

四 文明十二年一月

法林庵の開祖在天和尚が八十六才で遷化し、和尚についての伝記がまとめられた。……………253

四・五 文明十四・十九年 長慶庵の寺領に關係する段録

記録や年貢取帳がつくられた。……………254

五 文明十八年八月

京都常光院の僧堯恵は、越後府中から柏崎を通り、三国峠を越えて上野国へ向かった。……………256

五 文明年間

竹俣の臨濟宗福昌庵ができた、と伝える。……………256

五 文明年間

上一日市の天満社が建立された、と伝える。……………257

五 文明年間

五郎丸の羽黒社は村人の六左衛門が羽後国羽黒大神を勧請し初産神として祭った、と伝える。……………257

五 文明年間

舞子の法林庵ができた、と伝える。……………257

五 長享二年十月

京都常光院堯恵は、上野国から三国峠を越えて越後国に入った。……………257

万里集九は案内役の尻高孫次郎とともに三国峠を越えて上田莊に入り、安楽寺や大義寺等に立ち寄った。……………258

五 長享二年十一月

上杉顕定（山内上杉氏）は上杉定正（扇谷上杉氏）と戦い、中條定房に十日以内に着陣すること、詳しくは尻高左京亮が伝言すること

を申し伝えた。……………259

五 延徳二年

思川の実際庵（のちの天昌寺）が曹洞宗に転じた、と伝える。……………259

六 延徳三年五月 上田莊の関郷が北野神社領であつた。……………

260

六 延徳三年七月 上田莊の関郷が北野神社領であつた。……………

260

六 明応三年カ九月 楡井孫三郎が上田莊に到着し迅速な行動をとつたことに對し、上杉房定が感悦の意をあらわした。……………

260

六 明応三年カ九月 發智六郎右衛門尉が上田莊に到着し迅速な行動をとつたことに對し、上杉房定が感悦の意をあらわした。……………

260

六 明応四年五月 守護上杉房能は雲洞庵に御免船二艘の使用を許可した。……………

261

六 十五世紀 大木六の木六神社は後花園天皇の頃奉祀された、と伝える。……………

261

六 永正二年四月 藏主某は上田へ移り、栖吉の領地を長尾房景に引き渡した。……………

262

第三章 戦国乱世と上田長尾氏

七 永正五年二月 永正の乱が始まった、永正四年八

六 永正六年七月

六 永正六年七月

月、守護代長尾為景は守護上杉房能を攻め殺し、上杉定実をむかえて守護の座にすえた。房能の兄で、関東管領の上杉顯定が越後に攻め込もうとして、この日色部昌長に、上田の長尾房長と連絡をとりながら行動するよう申し伝えた。……………

上杉顯定は平子氏に、長尾為景・上杉定実軍と戦うため上田莊へ出陣するよう命じた。……………

上杉顯定は發智六郎右衛門に對し、長尾為景との戦いで尻高左京亮と連絡をとり一層忠節をつくすよう申し伝えた。……………

七 永正九年一月

雲洞庵に上杉顯定は、同庵領の頸城郡苅田と福光の代りに上田莊馬場郷内の桐沢氏の旧領を与えた。……………

尾房長が諸堂を建立し、上野国来福寺から一華大和尚を招いた。……265

三 永正九年一月
上杉定実は長尾房長に対し、坂戸城の合戦で多くの敵を討ち捕えたことを賞し、古志郡も押さえたいと申し伝えた。……265

三 永正九年一月
上杉定実は長尾房長に対し、古志郡平定のために適切な行動をとるよう申し伝えた。……266

三 永正九年一月
上杉定実は桃溪斎宗弘に、現在の府内をはじめとした越後の政治状況について報告した。……266

三 永正十年カ一月
長尾為景は福王寺彦八郎に上田での戦功を賞し、今後も堅固な守備と出陣を急ぐ必要があることを申し伝えた。……268

三 永正十年五月
長尾為景は福王寺彦八郎に対し、宇佐美房忠の陰謀には同心しないこと、要害を油断なく守備するこ

と、上田衆や妻有衆、藪神衆などが上条城に集まり抵抗しようとしていることなどを申し伝えた。……269

三 永正十年八月
長尾為景は長尾房長に対し、信州衆の越後乱入や上杉定実方の上田口からの侵入が予想されるので十分警戒するよう命じた。……269

三 永正十年カ九月
長尾為景は佐藤弥太郎に上田口の戦いで功績をあげたことを賞し、今後も忠信をつくすよう申し伝えた。……270

三 永正十年十月
長尾為景は福王寺掃部助に河治の戦いで勝利したことを賞し、上杉定実が春日山城に入ったがすぐに帰府させたこと、宇佐美房忠の要害を攻めること等々を申し伝えた。……270

三 永正十一年一月
長尾為景は築地資茂に、中条藤資が水原から上田口へ向かったこ

と、そのため手薄になった水原の

防備を十分にすること、上田口へ

は府内からも日々兵を派遣してい

ることなどを申し伝えた。……………271

二 永正十一年一月

長尾為景は江口与三郎に対し、上

田口で陣を張り活躍したことを賞

した。……………271

三 永正十一年一月

長尾房長は江口与三郎に対し、六

日市の戦いでの活躍等、為景より

連絡があつたことについて申し伝

えた。……………272

三 永正十一年一月

長尾為景は築地資茂に六日市の一

戦で八条左衛門佐や石川・飯沼氏

等千余人を討ち取り勝利したこ

と、とくに築地氏の一族家臣で敵

七〇人も討ち取り戦功をあげたこ

とを賞した。……………272

四 永正十一年一月

長尾為景は築地資茂に対し、六日

市の戦いで資茂の被官弥八が戦功

五 永正十一年一月

長尾為景は長尾房景に、六日市の

一戦で上杉定実方と戦い、八条左

衛門佐や石川・飯沼氏等千余人を

討ち取り勝利したことを賞した。……………273

六 永正十一年一月

長尾為景は江口与三郎に対し、六

日市の一戦で上杉定実方と戦い戦

功をあげたことを賞した。……………273

七 永正十一年カ十二月

小島重隆は妻有莊や上田莊、

そして小野陣や越中陣で活躍した

ことを長尾為景に伝達してほしい

と、長尾房景に申し入れた。……………274

八 永正十二年七月

上杉憲房は大沢右京亮父子が六日

市の一戦で討死し後継者がいなく

なつたため、とりあえず発智山城

入道の孫の亀寿を相続人とした。……………274

九 永正十四年九月

長尾為景は雲洞庵に対し、免船及

び脇舟の使用について許可した。……………275

十 永正末年ころカ

山内重俊は長尾房景に上条兵部と

をあげたことを賞した。……………272

六 永正年間カ

長尾為景に用件が伝えられたことを謝し、上田舞子村が遠路であるがよく連絡をとって対処すること、そして太刀を祝儀として贈ったことなどを申し伝えた。……………275

七 天文元年

長尾房景方が上田莊へ攻撃をかけ、落居もほだないと知らせが為景のもとに届いた。……………276

八 天文四年七月

塩沢の浄土宗長恩寺はこの年炭鎮によって中興された、と伝える。……………276

九 年不明

坂戸城主長尾房長は古藤清雲軒に五十沢口での戦功を賞した。……………277

十 年不明

坂戸城主長尾房長が古藤清雲軒の金銭納入を謝した。……………277

十一 年不明

坂戸城主長尾房長が古藤清雲軒に酒の到来を謝すとともに、栃尾の守備は堅いと報じた。……………278

坂戸城主長尾房長が古藤清雲軒に新山落城の際の次郎太郎の戦功を

十二 天文四年九月

賞した。……………278

十三 天文四年十一月

上田・藪神の長尾房長方が蔵王堂口まで出兵したため、長尾為景は福王寺孝重に、妻有・河東を攻撃するよう命じた。……………278

十四 天文五年九月

長尾為景は福王寺孝重に、上田の長尾房長方の者で為景に内応した者については上田莊内の土地を宛行うつもりであることを申し伝えた。……………278

十五 天文五年

舞子の石上神社はこの年に社殿を再建した、と伝える。……………279

十六 天文十五年三月

片田の熊野十二社は駿河国高橋というところから片田の宮林十二平に勧請したものであるが、この年片田の屋敷添二本杉に社殿を築き、そこへ遷宮した、と伝える。……………279

一〇三 年不明

右京亮景清が雲洞庵の住職に雲洞庵を善美に嗣がせ、長慶庵は善隆書記に掃除させると伝えた。……………

280

一〇三 天文十六年十二月 真言奥義を極めた上田莊線柳

院円紹法印は、天下安全、宝祚長

久の祈禱を行った。……………

280

一〇四 年不明

長尾長景は長尾房長の下向は思いがけないことで誠に口惜しいと、

長尾肥前守に報じた。……………

280

一〇五 天文十八年六月 坂戸城の長尾政景が長尾景虎に

反抗しようとしている風説があり、宇佐美定満は平子孫太郎に警

戒するよう申し伝えた。……………

281

一〇六 天文二十年カ正月 上田長尾氏と古志長尾氏の間に戦闘があつた。……………

282

一〇七 天文二十年カ一月 上田衆の栗林経重が発智長芳

などの戦功を賞した。……………

282

一〇八 天文二十年二月 長尾政景は天文十九年十二月、

長尾景虎に対し武力行使に及んだ。

282

二〇九 天文二十年三月 長尾景虎は中条玄蕃允に対し、

上野城で上田衆と戦い勝利したことを賞し、本領を安堵した。……………

283

この日、長尾景虎は中条玄蕃允に対し、長尾政景方の上田衆と戦い、多くを討ち捕えたことを賞し、油断なく防備するよう命じた。……………

282

二一〇 天文二十年五月

宇佐美定満は平子孫太郎に対し、上田の長尾政景方の情勢を報告し、攻撃することを申し伝えた。……………

283

二一一 天文二十年七月

長尾景虎は平子孫太郎に対し、坂戸城の長尾政景を攻撃するよう命じた。……………

284

二一二 天文二十年七月

長尾景虎が平子孫太郎に長尾政景に向けて出陣するよう命じた。……………

284

二一三 天文二十年八月

長尾景虎は坂戸城の長尾政景を攻撃しようとしたが、政景が和睦を願っている話を聞き、自分の姉を政景に嫁がせた、という。……………

284

二一四 天文二十年八月

長尾景虎は坂戸城の長尾政景を攻撃しようとしたが、政景が和睦を願っている話を聞き、自分の姉を政景に嫁がせた、という。……………

284

二一五 天文二十年八月

長尾景虎は坂戸城の長尾政景を攻撃しようとしたが、政景が和睦を願っている話を聞き、自分の姉を政景に嫁がせた、という。……………

284

二一六 天文二十年八月

長尾景虎は坂戸城の長尾政景を攻撃しようとしたが、政景が和睦を願っている話を聞き、自分の姉を政景に嫁がせた、という。……………

284

二一七 天文二十年八月

長尾景虎は坂戸城の長尾政景を攻撃しようとしたが、政景が和睦を願っている話を聞き、自分の姉を政景に嫁がせた、という。……………

284

二七 天文二十一年五月 長尾景虎が僧を上野に遣して

三三 天文年間

関東の動静を探らせ、兵を関東に

宮野下の神明社が建立された、と伝える。……………288

出そうとする。この日、上杉憲政

三三 天文年間

がこれを長尾政景に報じて、出陣

雲洞庵の寺領に係する台帳がつくられた。……………288

の準備をし、また山中の軍道の修

三四 天文年間

理を命じた。……………286

二八 年不明

三三 年不明

上杉憲政は改年の祝いとして雲洞庵からの白布を受け取り、その返

雲洞庵の上葺萱に係する台帳がつくられた。……………289

礼として扇子を贈り謝意をあらわした。……………286

三三 年不明

二九 年不明

三七 弘治元年四月

参河守房将は雲洞庵に対し改年の挨拶や進物の受領を謝し、雲洞庵の焼香に満足していることを伝えた。……………286

坂戸城主の長尾政景は安閑寺・長勝寺を稜厳寺領とし、諸役不入にすることを伝えた。……………293

三〇 天文二十三年八月 長尾景虎は坂戸城主の長尾政

三六 弘治三年六月

景に隠退の志を抱いて越後を抜け

出したことを告げた。……………287

武田晴信は長尾景虎と戦うため、上田筋に北条左衛門太夫を着陣させ、越国衆を滅ぼすよう準備させた。……………293

三一 天文二十三年

三九 弘治三年八月

下一日市に回国の修行僧が経典を埋納した。……………287

上田衆の南雲治部左衛門に長尾景虎は、信州上野原での戦功を賞し

た。……………294

一三〇・三 弘治三年八月 坂戸城主の長尾政景は大橋弥

次右衛門・下平弥七郎の信州上野

原での戦功を賞した。……………294

一三一 永禄二年十月 坂戸城主の長尾政景は、長尾景虎

の京都からの帰国を祝って太刀を

披露した。……………294

一三二 永禄三年カ三月 長尾政景に上杉輝虎は、藏田五

郎左衛門と相談しながら府内を守

るよう命じた。……………295

一三四 永禄三年カ十月 上杉輝虎は直江実綱などに、上

田の年貢を厳しく催促するように

命じた。……………295

一三五 年不明 坂戸城主長尾政景に関東政朝が武

田晴信の関東出陣を伝え、救援を

要請する。……………296

一三六 永禄三年四月 坂戸城主の長尾政景に関東管領の

上杉光哲が、長尾景虎の越中より

の帰陣を祝すとともに、直ちに景

一三七 永禄三年五月

虎の関東出陣を要請した。……………297
塩沢まで出陣した長尾景虎が、越
後に陰謀をめぐらすものがあると
いうので引返した。……………297

一三八 永禄四年三月

長尾景虎は昨年水害を受けた上田
荘・妻有荘・藪神に徳政令を出し
た。……………297

一三九 永禄四年八月

坂戸城主の長尾政景に上杉政虎
は、留守中の指示を出した。……………298

一四〇 永禄五年一月

上杉輝虎は上田に制札を掲げ、坂
戸城大手の通行を停止し、直路を
往来するよう命じた。……………299

一四一・一四二 永禄七年二月 上田衆の佐野攻めでの戦功を

上杉輝虎が賞した。……………299

一四四 永禄七年カ二月 坂戸城主の長尾政景へ上杉輝虎

が普請などを油断なくやるよう命
じた。……………300

一四五 永禄七年カ三月 坂戸城主の長尾政景へ上杉輝虎

が、関東へ出陣するので、道路普

請をしつかりやるよう命じた。…… 300

一四 永禄七年七月

坂戸城主の長尾政景が野尻池で溺死した。…… 301

一四・四八 永禄七年

長尾政景の子顕景は父の死後、上杉輝虎の養子となった。…… 301

一四 永禄七年カ九月

上杉輝虎が上田まで出陣した。…… 302

一五 年不明

上杉輝虎は栗林政頼に、沼田城にいる猿京近辺の人質を受け取り、上田に置いておくよう命じた。…… 302

一五 永禄八年五月

坂戸城守将の栗林政頼などに上杉輝虎は、武田晴信の上野出兵を報じ、倉内へ急ぎ移るよう命じた。…… 303

一五 永禄八年五月

武田晴信方の兵がまだ見えなため、上杉輝虎は栗林政頼等に、しばらく上田の諸将を沼田城へ出陣させることを中止するよう命じた。…… 303

一五 永禄八年六月

「富士浅間大菩薩」と刻まれた懸仏がつくられた。…… 304

一五 永禄八年七月

武田・北条軍が関東へ侵入してきたため、上杉輝虎は栗林政頼等に、上田の諸将を急いで沼田城に出陣させ、防備させるよう命じた。…… 304

一五 永禄八年十一月

上杉輝虎は里見義堯に、浅貝に着陣し、さらに上野国沼田をはじめ関東へ出陣することを告げた。…… 304

一五 永禄九年四月

長尾顕景は広居又五郎の臼井での戦功を賞した。…… 305

一五 永禄九年四月

上杉輝虎は倉内城在城中の河田長親に先陣として上田衆を派遣すると伝えた。…… 305

一五 永禄十年四月

厩橋城将北条高広が上杉輝虎と敵対したため、輝虎は沼田城将の松本景繁等に、上田衆を派遣したので高広軍と戦い、沼田城を防備するよう命じた。…… 306

一五 永禄十一年一月

武田信玄が上野国へ出陣することを知り、上杉輝虎は、沼田在城

の松本景繁等に警備を強めるよう

に命じ、援軍として上田の兵を沼

田へ出陣させると告げた。……………306

一六 永禄十一年十月 坂戸城守将の栗林政頼に上杉輝

虎は、傍輩たちを引きつれて急ぎ

新潟の三ヶ津に出兵するよう命じ

た。……………307

一六 永禄十一年十二月 本庄繁長は北条氏照に上杉輝

虎の本庄城攻撃と上田衆の上野侵

入を報じ、参陣を要請した。……………308

一六 永禄十二年五月 武田信玄が永禄十一年末に駿河

の今川氏真を攻め滅ぼしたため、

甲斐・駿河・相模の三国同盟が崩

れた。北条氏康はこれまでの行き

がかりをすてて、上杉輝虎に同盟

を申し入れて来た。この日、北条

氏康の使僧の天用院が塩沢に到着

した。……………308

一三 永禄十二年閏五月 塩沢で上杉輝虎の書いた手紙

が小田原に届いた。……………310

一六 永禄十二年閏五月 上杉輝虎の使僧広泰寺昌派が

小田原へ派遣され、上野国の沼田

に無事到着した。昌派には途中、

柿崎・北条・上田などで酒、樽、

馬の飼料等が支給され、その感謝

の意を本庄宗緩に伝えた。……………311

一五 永禄十二年十一月 上杉輝虎が塩沢に到着した。……………312

一六 永禄十三年二月 上田衆の広居忠家の佐野の飯守

山での戦功を長尾顕景が賞した。……………312

一七 元亀元年九月 上杉輝虎は、武田信玄が上野国厩

橋に出陣しようとしていることを

聞き、府内を出発し上田に着陣、

さらに上野国へと出陣した。……………312

一六 元亀元年九月 上田衆の板屋修理亮に上杉謙信

は、武田信玄が前橋に向ったので、

倉内へ急行するよう命じた。……………313

一六 元亀元年九月 上杉謙信は、上田まで出陣したが

北条氏康と同陣できないと後藤勝

元に報じた。……………313

一七 元龜元年カ十月 坂戸城守將の栗林政頼らに上杉

謙信が、武田信玄の上野侵入を報じ、上田莊内の者を引き連れ、至急越山するように命じた。……………314

一七 元龜元年十一月 坂戸城守將の栗林政頼に上杉謙

信が、武田信玄が上野に侵入したと報じ、沼田近辺にまで侵入して来たら、すぐに救援に向えと命じた。……………315

一七 年不明

坂戸城守將の上村尚秀が又五郎に七郎殿の関東への峠越えの様子を伝えた。……………315

一七 年不明

樺野沢の住人千喜良彦四郎が犬伏城の守備についていた。……………316

一七 元龜二年二月

上杉謙信は北条氏が厩橋に陣取ったと聞き、上田衆を救援に向わせた。……………316

一七 元龜二年二月

栗林政頼に上杉謙信は、直江景綱

などと談合して早く関東へ出兵するよう命じた。……………317

一七 元龜二年二月

坂戸城守將の栗林政頼に上杉謙信は、上田衆を率いて関東に出兵するよう命じた。……………317

一七 元龜二年二月

沼田へ出陣していた栗林政頼に上杉謙信は、武田信玄が退散したので、早く府内へまわるよう命じた。……………318

一七 元龜二年四月

坂戸城守將の栗林政頼に上杉謙信は、北条・武田氏が西上州に侵入して来たので上田衆の出陣を命じた。……………318

一七 元龜二年カ五月

坂戸城守將の栗林政頼などに上杉謙信が、武田信玄の出陣が遅れているから、早く上田衆を連れて浅貝へ行き、寄居の普請を急ぐよう命じた。……………319

一八 元龜二年五月

上杉謙信は倉内在城中の河田重親に塩沢に着いたことを知らせた。……………319

一八二 元龜二年カ九月 上杉謙信は塩沢の手前から、栗

林政頼らに急ぎ倉内へ向うよう命

じた。……………320

一八三 元龜二―天正五年 坂戸城守将の栗林政頼に上杉

謙信は、沼田の加勢としての軍功

を賞した。……………320

一八三 元龜二―天正五年 坂戸城守将の栗林政頼に上杉

謙信は、伊賀沢の式歳駒を愛育す

るよう命じた。……………321

一八四 元龜二―天正五年 栗林政頼に上杉謙信は、長い

在城の勞を賞し、鷹之鷹を贈った。……321

一八五 元龜三―天正五年 坂戸城守将の栗林政頼などに

上杉謙信が、敵が新地へ侵入して

来たので上田衆を出陣させたが、

退散したと報じた。……………321

一八六 元龜三―天正五年 坂戸城守将の栗林政頼に上杉

謙信は、北条氏の進出に備え、急

ぎ倉内へ移るよう命じた。……………322

一八七 元龜三年八月 坂戸城守将の栗林政頼に上杉謙信

一八六 元龜三年九月

は、関東の情勢を報じ、諸口の人
留めを命じた。……………322

坂戸城守将の栗林政頼などに上杉

謙信は、早く上田衆を越中の謙信

の陣へまわすよう命じた。……………323

一八九 元龜三年九月

坂戸城守将の栗林政頼に越中出陣
中の上杉謙信が、早く自陣に加わ

るよう命じた。……………323

一九〇・一九一 元龜四年一月 長尾顕景と栗林政頼に越中の

椎名康胤が、自分の処遇について

奔走してくれたことを謝した。……………324

一九二 天正元年

思川の曹洞宗実際庵を天昌寺と改
めた、と伝える。……………324

一九三 天正二年八月

坂戸城守将の栗林政頼らに上杉謙
信が、早く塩沢を出発し、沼田へ

出陣するよう命じた。……………325

一九四・一九五 天正三年カ六月 坂戸城守将の栗林政頼に上

杉謙信が、市川寄居の普請の勞を

ねがらい、上田に帰り人馬を休ま

せるよう命じた。……………325

一九 天正三年十月 楡井親忠が越後福昌庵に観音領と

して土地を寄進した。……………326

二〇 天正四年四月 上田衆の泉沢又五郎に上杉景勝は

舞子の内十貫と屋敷七軒を宛行つた。……………326

二一 天正四年九月 坂戸城守将の栗林政頼に上杉謙信

は、関東口の人留めを厳しくやるように命じた。……………326

二二 天正四年九月 法林庵（宝林寺）の伝記がまとめ

られた。……………327

二三 天正五年カ三月 能登へ遠征中の栗林政頼らに上

杉謙信が、普請が完成するまで大宮坊などの衆徒を陣下に留置くよう命じた。……………327

二四 天正五年カ三月 上杉謙信は、倉内在城中の河田

重親に先発の直江景綱が四月五、六日頃に上田に到着するだろうと伝えた。……………328

二五 天正五年七月 樺野沢の龍沢庵の門前五軒の諸役

を上杉謙信が免除した。……………329

第四章 上杉景勝と上田衆の活躍

二六 天正六年四月 上杉景勝が謙信のあとを嗣ぎ、雲

洞庵は祝儀として景勝に青銅百疋を贈った。それに対して景勝は雲

洞庵に礼状を出した。……………330

二七 天正六年五月 上杉謙信の跡継ぎをめぐつて、養

子の上杉景勝と上杉景虎の争う御館の乱が起きた。上田衆の登坂広

重は、親の代から浅貝城を守備していたが、この日景虎の兵を荒川館に攻撃した。……………330

二八 天正六年五月 上杉景勝は福王寺兵部少輔に、坂

戸城守将の深沢利重と相談して、守備を厳しくするよう命じた。……………331

二九 天正六年五月 坂戸城守将の深沢利重が猿京で北

条勢を追い散らしたことを上杉景勝が賞すとともに普請に励めと命

じた。……………331

二〇七 天正六年五月 上田衆の広居忠家の荒川館における軍功を上杉景勝が賞した。……………331

二〇八 天正六年五月 上田衆の林加兵衛の春日山城に籠城しての働きを、上杉景勝が賞した。……………332

上杉景勝が吉田源左衛門に、上田や妻有方面の警備を行うよう命じた。……………332

二〇九 天正六年五月 上杉景勝が吉田源左衛門に、上田や妻有方面の警備を行うよう命じた。……………332

坂戸城守将の富里三郎左衛門尉・賀勢藤次郎などに上杉景勝が、敵が侵入して来たと聞き、地下人などを集めて防戦するよう命じた。……………332

二一〇・二一一 天正六年五月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、猿京の様子を知らせよう命じた。……………333

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

二一一 天正六年五月 上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

二一二 天正六年五月 上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

上杉景勝は小森沢政秀の飯山攻撃を賞すとともに、上田への人質は

三二四 天正六年六月 出す必要はないと伝えた。……………334

北条氏政は沼田城将の河田重親に上杉景虎の味方について上田荘に先駆けたら、所領安堵を約束した。……………334

三二五 天正六年六月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、上郡の情勢を伝えるとともに、鉄砲を春日山城によこせと命じた。……………335

坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、関東から侵入する敵を荒戸・直路で防ぐよう指示した。……………335

三二六 天正六年六月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、関東からの侵入に備え荒戸・直路で防ぐよう指示した。……………335

坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、関東からの侵入に備え荒戸・直路に人数を集め防ぐよう命じた。……………336

三二七 天正六年七月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

三二八 天正六年七月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

三二九 天正六年七月 坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、荒戸・直路の普請を命じるとともに、近日援軍を送ると報じた。……………337

景勝は、樺沢城以外の砦の守備兵を直路・荒戸に集めるよう命じた。……………337

三〇 天正六年七月

坂戸城守将長尾平太と長尾舊雪齋に上杉景勝が、上杉景虎方の軍勢が坂戸城近辺に侵入したことを聞き、援軍を送ることを通報した。……………338

三一 天正六年七月

坂戸城守将栗林政頼に、河田長親が武田勝頼のなかたちで、上杉景勝と景虎の講和が成立したと告げた。……………339

三二 天正六年八月

坂戸城守将の深沢利重に、上杉景勝は坂戸城へ援軍と弾薬を送り、防備を厳重にさせ、同時に直路と荒戸の守備も厳重に行うことなどを命じた。……………339

三三 天正六年八月

坂戸城守将の深沢利重が援軍を求めて来たので、上杉景勝は安部政吉に続いて嶋津泰忠を派遣した。……………340

三四 天正六年八月

坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、広瀬での戦功を賞し、嶋津泰忠と相談して策略をめぐらせと命じた。……………340

三五 天正六年八月

上田衆の山田貞宗に上杉景勝は、上田へ敵が攻めかかったが、撃退したことを賞した。……………340

三六～三三

天正六年八月 上杉景虎支援のため、その実

家である北条氏の軍勢が魚沼郡に侵入し、各地で戦いが繰り広げられた。……………341

三三 天正六年九月

真田昌幸が武田勝頼に上田への軍事行動の様子と北条氏政の備などについて報じた。……………344

三四 天正六年九月

北条氏政は某氏の北条氏邦とともに上田表で戦ったことを賞した。……………345

三五 天正六年九月

上杉景虎を支持していた武田勝頼に上杉景勝は、金を贈り、領土の割譲を約束して味方に引き入れ

た。この日景勝は、小森沢政秀な

どに、甲州衆の上田筋への出動を

取りなしてくれるよう依頼した。… 345

二三・三七 天正六年九月 坂戸城守将の栗林政頼などに

上杉景勝が、やがて鉄砲や玉薬を

送るので手堅い防戦を命じた。… 345

二三 天正六年九月

坂戸城守将の清水内蔵助に上杉景

勝が、援軍を送るので安心するよ

うに伝えた。… 347

二三 天正六年九月

坂戸城守将の栗林政頼などに上杉

景勝は、上田の様子を聞き合わせ

るとともに、上郡の情勢を報じた。… 347

二四 天正六年九月

坂戸城守将の栗林政頼などに上杉

景勝は、甲斐の武田勝頼軍が援軍

として妻有に到着したことを伝え

た。… 348

二四・四二 天正六年九月 上田荘へ侵入した北条勢は、

樺沢城に北条高広を詰置き、それ

以外は帰陣した。… 349

二三 天正六年十月

坂戸城守将の清水内蔵助を上杉景

勝は春日山城に移し、代わって小

森沢政秀に坂戸城外曲輪を守らせ

た。… 350

二四 天正六年十月

上田荘に乱入した河田重親に対し、

上杉景勝は城中の普請番等を堅固

にするよう命じた。… 350

二四 天正六年十月

上杉景勝は、樺沢城にいる河田重

親に対し、景勝方に属すよう勧め

た。… 350

二四 天正六年カ十月

北条氏邦、会津黒川城主蘆名盛

隆に、明春上野沼田城を落し、越

後上田まで進陣することを告げ

る。… 351

二四 天正六年十月

坂戸城守将の清水藤左衛門の御館

の乱における戦功を上杉景勝が賞

した。… 351

二四 天正六年十一月

北条氏政は後藤勝元が樺沢城に

盾籠ったことを賞した。… 352

二四九 天正六年十二月 樺沢城に在城する河田重親に北

条氏政は、樺沢城を堅守し、氏政の出馬を待つよう命じた。……………352

二五〇 天正六年十二月 上田荘に侵入した河田重親に、

上杉景虎は北条高広と共に樺沢城で越年し、来春まで堅く守備するよう命じた。……………353

二五一 天正六年十二月 坂戸城守将の栗林政頼などに上

杉景勝は、樺沢城奪回の失敗などの働きの悪さをしかつた。……………353

二五二 天正六年十二月 坂戸城守将の登坂清忠などから

の援軍要請に対し、上杉景勝は、実現できないことを嘆き、明春には援軍派遣を可能にしたいと、申し渡した。……………355

二五三 天正六年十二月 樺沢まで侵入していた河田重親

の救援要請に対し、北条氏政は雪のため出馬できないと返事した。……………355

二五四 天正六年十二月 坂戸城守将の登坂与五郎などに

上杉景勝は、春日山城救援より、坂戸城の守備に励めと伝えた。……………356

二五五 天正六年十二月 上田衆の名簿が作られた。……………356

二五六 天正七年一月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝

は、年頭の祝儀の札をのべ、上郡の情勢を伝えた。……………357

二五七 天正七年二月 五十公野重家らが能登七尾城将鰯

坂長実に、御館の乱の戦況や、樺沢城を攻撃し、二・三之廻輪まで焼き払い、落居が目前であることなどを知らせ、景勝方として参陣することを勧めた。……………357

二五八 天正七年二月 樺沢城から退去した長尾景憲に上

杉景勝は、その奪回を命じるとともに上郡の情勢を伝えた。……………358

二五九 天正七年二月 坂戸城守将の栗林政頼などに、上

杉景勝が援軍を送ると伝えた。……………359

二六〇 天正七年二月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、小平尾・下蔵救援のため、荒

戸・直路と申合せ駆けつけるよう命じた。……………359

二六二 天正七年二月 吉田源左衛門の軍功を上杉景勝が賞した。……………360

二六三 天正七年二月 坂戸城守将の深沢利重などに上杉景勝は、坂戸・荒戸・直路の各城の防備を強固にし、御館への攻撃に参陣するよう申し付けた。……………360

二六四 天正七年二月 清水藤左衛門に上杉景勝は、浦沢城を守ることを命じた。……………360

二六五 天正七年カ 栗林政頼に上杉景勝が、春日山へ参陣するとともに、関東堺の荒戸と直路を堅く人留めするよう命じた。……………361

二六六 天正七年三月 武田勝頼は新発田忠敦に景勝軍が樺沢城などを攻略したことを祝し、御館城攻撃について懸念していることを伝えた。……………361

二六六 天正七年三月

坂戸城守将の浅間修理亮に上杉景

勝は、御館が落城したこと、樺沢城の守備の応援として栗林政頼を帰陣させたこと、鉄砲や玉薬も送ったこと等を申し渡した。……………362

二六七 天正七年三月 坂戸城守将の深沢利重に上杉景勝は、坂戸城普請を急ぐよう、また直路へも指示を出すよう命じた。……………362

二六八 天正七年四月 坂戸城守将の登坂清忠に上杉景勝は、国境の守備を嚴重に行うよう命じ、鉄砲・煙硝などを送った。……………363

二六九 天正七年カ六月 雲洞庵の壑翁玄林の没後、上杉景勝は、雲洞庵により繁榮するよう工夫せよと命じた。……………363

二七〇 天正七年九月 上田衆の長谷川善之丞の御館の乱における戦功を直江信勝が賞し、刈羽郡の地を宛行った。……………364

二七一 天正八年二月 北条氏政は伊豆にいる清水康英に、上田荘にあった北条高広の去就などについて伝えた。……………364

二三・二三 天正八年二月 上杉景勝は上田衆の一人宇津

江朝清の御館の乱における功を賞し、東条佐渡守の旧領を宛行い、

その地を郡司不入とした。…………… 365

二四 天正八年閏三月

上杉景勝は広瀬城将の桜井吉晴等に、景虎残党の攻撃を賞し、下越を平定するに際しても活躍するよう申し付け、上田へも連絡済みであることを申し渡した。…………… 365

二五 天正八年閏三月

上杉景勝は丸山無兵衛の戦功を賞して上田大河大崎村の内大津氏の旧領を宛行った。…………… 366

二六 天正八年閏三月

北条氏政軍が荒戸城を攻撃し、荒戸城将の樋口某などを死亡させた。氏政は木内八右衛門にその戦功を賞した。…………… 366

二七 天正八年閏三月

大沢で北条高広の一族らが蜂起した。…………… 366

二八 天正八年五月

坂戸城守将の深沢利重などに、上

杉景勝が三条で勝利し帰陣する

際、大面で景虎の残党と戦い討ち捕えたこと、関東の境目である上田でも油断なく防備することなどを申し渡した。…………… 367

二九 天正八年七月

上田衆の上村藤右衛門に上杉景勝は、坂戸城の人質・守備兵の嚴重な掌握を命じた。…………… 367

三〇 天正八年十一月

上田衆の登坂甚兵衛尉に上杉景勝は荒戸城守備を命じ、長松氏の旧領を宛行った。…………… 368

三一 天正八年十二月

上田衆の登坂清忠に上杉景勝は直路に在城するよう命じ、丸山助兵衛尉などの旧領を宛行った。…………… 368

三二 天正九年二月

信濃国竜雲寺の全祝が雲洞庵の存達に、竜雲寺が雲洞庵末寺となり、竜雲寺は武田氏に信頼されていることを景勝に披露してほしいと、要請した。…………… 368

二八三 天正九年一月

上田衆の江田藤次郎の本領を上杉景勝が安堵した。……………

369

二八四 年不明

北高全祝が最乗寺に雄峰の順番について大守からの命令があったことを三応禪師に伝えるよう依頼した。……………

369

二八五 天正九年二月

富里三郎左衛門尉に上杉景勝は、荒戸城を守備させ、馬場郷と小木六の土地を宛行った。……………

369

二八六 天正九年二月

古藤新右衛門と売間甚五左衛門に上杉景勝は、長嶋氏の旧地を宛行った。……………

370

二八七 天正九年二月

清水藤左衛門に上杉景勝は、御館の乱での戦功を賞し、佐藤氏等の旧領を宛行った。……………

370

二八八 天正九年二月

上田衆の上村尚秀に上杉景勝は、堪忍分として只見氏と長岡氏の旧領を宛行った。……………

370

二八九 天正九年二月

深沢利重に上杉景勝は、塩沢郷・

二九〇 天正九年二月

富実・片田の土地を宛行った。……………樋口与三右衛門に上杉景勝は、荒戸城を守備させ、金子・鞍又・豊野氏の旧領を宛行った。……………

371

二九一 天正九年二月

栗林政頼に上杉景勝は二艘の船の海河での諸役停止を認めた。……………栗林政頼に上杉景勝は荒戸城を守備させ、長尾右京亮の旧領などを宛行った。……………

371

二九二 天正九年六月

栗林政頼に上杉景勝は肥前守を名乗ることを許した。……………

372

二九三 天正九年六月

栗林政頼に上杉景勝は肥前守を名乗ることを許した。……………多賀大僧正は栗林政頼、黒金景信等に対し、鉄砲や玉薬の受け取り、祈禱のこと、敵の動静等々について報告した。……………

372

二九四 年不明

上杉景勝は泉沢久秀に、まいこ・うかち等の御料所の皆納を厳重にするよう申し付けた。……………

372

二九五 天正九年九月

上杉景勝は直海新兵衛に、御館

373

二九六 天正九年十一月

上杉景勝は直海新兵衛に、御館

の乱の戦功を賞し、上田の鈴木総
右衛門の切符等を宛行つた。…………… 373

二九七～三〇一 天正九年十一月 上田衆の浅間藤九郎・種村

又左衛門尉・上村喜左衛門・三本
又二郎・南屏鴛介に上杉景勝は堪
忍分として給地を宛行い、軍役等
を厳重に勤めるよう命じた。…………… 374

三〇二 天正十年カ二月 荒砥城将の栗林政頼が直江兼統
に関東の情勢を伝えた。…………… 375

三〇三～三〇五 天正十年三月 織田信長の軍勢が上野に侵入
し、さらに越後をうかがうと、坂
戸城守将の栗林政頼に矢野綱直が
上野の情勢を伝えた。…………… 375

三〇六 天正十年カ五月 上杉景勝と新発田重家が争うよ
うになり、上田衆の古藤新右衛門
が池端表へ出陣した。…………… 377

三〇七 天正十年七月 上田衆の青木新左衛門に上杉景勝
は、本領を安堵したほか、新恩地
として宇山を宛行つた。…………… 377

三〇八 天正十一年二月 上田衆の上村尚秀の託言により、

上杉景勝は岩沢村を宛行い、軍役
を厳重に勤めるよう命じた。…………… 377

三〇九 天正十一年二月 上田衆の上村清三の託言により、

上杉景勝は、岩沢村を宛行い、軍
役負担を命じた。…………… 378

三一〇 天正十一年二月 関興庵の是鑑の望みにより、上
杉景勝は安国寺の内一花院分を宛
行つた。…………… 378

三一 天正十一年三月 上野厩橋城将の北条高広、上条
宜順に北条軍の沼田城攻撃の近き
ことを報じ、上杉景勝の上田まで
の出陣斡旋を要請した。…………… 378

三二 天正十一年三月 北条高広は直江兼統に関東地方
の状況を報告し、景勝の援軍を要
請し、上田まで迎えに出るとした。…………… 379

三三 天正十一年十月 上田衆の三本与惣左衛門に、上
杉景勝は千喜良氏の旧領の替地と
して西方主計の旧領などを宛行つ

た。……………380

三〇 天正十二年二月 上田衆の栗林政頼を上杉景勝は

郡司に任じ、養父次郎左衛門尉の

待遇と同様にすることを伝えた。……380

三三・三三 天正十四年二月 上田衆の豊野藤左衛門と新

木新左衛門に上杉景勝は上田の内

の内田氏の旧領などを宛行つた。……383

三五 天正十二年二月 上田衆の栗林政頼に、上杉景勝

は荒砥在城を命じ、国分喜兵衛と

長野氏の旧領を宛行つた。……………380

三六 天正十二年二月 上田衆の栗林政頼に上杉景勝は、

上杉氏直轄領とした荒砥関所の管

理を委ねた。……………381

三七 天正十二年十月 上田衆の林源五郎の御館の乱以

来の忠功に対し、上杉景勝は多功

氏の旧領を宛行つた。……………381

三八 天正十二年十一月 上田衆の樋口兼豊の託言によ

り、上杉景勝はその本領・新地と

も郡司不入とした。……………381

三〇 年不明 城の救援に向わせた。……………382

上杉景勝は関興庵と門前を郡司不

入、諸役停止とした。……………382

三三・三三 天正十四年二月 上田衆の豊野藤左衛門と新

木新左衛門に上杉景勝は上田の内

の内田氏の旧領などを宛行つた。……383

三五 天正十四年七月 思川の曹洞宗天昌寺へ直江兼統

が観音免として一〇石を寄附し

た、と伝える。……………383

三四 天正十四年十二月 雲洞庵一〇世の北高全祝が八

〇歳で死去した、と伝える。……………384

三五 天正末年カ 上田衆の佐藤甚助・登坂甚兵衛に

上杉景勝の留守中に争乱が起つた

場合の処置を命じた。……………384

三六 天正末年カ 上田衆の登坂甚兵衛尉の武具を送

るため直江兼統は各領主に宿送一

五人の用意を命じる。……………385

三七 天正十七年七月 上杉景勝は輩名旧臣の平田輔範

を召抱え、上田衆をつけ、信州衆

の知行の残りの岩沢村と仁田村を
宛行つた。……………385

三六 天正十七年八月 黒金安芸守に佐渡在国を命じた

上杉景勝は、越後の知行地を郡司
不入とした。……………385

三六 天正十一、十八年（一五八三、九十）カ 北条氏直

は上野国中山城將の赤見山城守を中
山地衆・沼田浪人衆・上川田衆・
下川田衆・須川衆の寄親とした。……………386

三六 天正二十年四月 上田衆の齋木四郎兵衛尉に上杉

景勝は、思河の見出分と屋敷前の
給分を宛行つた。……………387

三六 天正二十年五月 上田衆の浅間内匠助の朝鮮出兵

に際し、上杉景勝は關落の者の旧
領を宛行つた。……………387

三六 天正二十年六月 上田衆の高村彦七郎の朝鮮出兵

の功により、上杉景勝は、關落の
者の旧領を喜六に宛行つた。……………388

三六 天正年間 塩沢の浄土真宗平等寺が信濃より

三四 天正年間

移つてきた、と伝える。……………388
中野の皇大神社の宮殿が建立され
た、と伝える。……………388

三五 天正年間

上一日市の神明社が天正年間の頃
まで上一日市の字榎というところ
にあった、と伝える。……………388

三六 文禄二年五月

伊勢御師蔵田左京亮の嫡子又五郎
が年頭の御折袴のため上田より名
護屋に下向し、朝鮮に渡っている。……………389

三七、三八 文禄三年二月 上田衆の上村喜左衛門・三本

与三左衛門に上杉景勝は加恩とし
て領地を宛行つた。……………389

三八 文禄三年

上杉氏家臣団の定納高と軍役人数
を書き上げた「定納員数目録」が
作られた。……………390

三四 文禄年間

中野の稲荷社は山城国伏見稲荷大
神を勧請した、と伝える。……………393

三四 文禄・慶長初年カ 上田衆の深沢利重に上杉景勝

は、山岸氏の旧領を宛行つた。……………393

近世I細目次

一 慶長九年閏八月

堀直奇より堀甲斐守へ塩沢村肝煎
につき書状 領主(村役人) 443

二 慶長期卯月

堀甲斐守より井口弥右衛門へ塩沢
村火事につき申渡状 領主(諸
役免除) 443

三 慶長十年五月

堀甲斐守より白木三郎左衛門への
駄賃銀請取状 租税(役銀請取) 444

四 慶長十一年

堀直奇より清水越え欠落人の取締
り申渡状(五通) 領主(欠落
人取締) 444

五 慶長十三年

堀甲斐守より清水村への諸役赦免
の申付状(二通) 領主(諸役
免除) 445

六 慶長期

堀直奇より栃窪越え欠落人の取締
り申渡状(三通) 領主(欠落
人取締) 446

七 慶長十八年八月

山田隼人正より長恩寺へ荒地開発
の申付状 領主(開発奨励) 447

八 慶長十九年

原田次郎左衛門より清水越え欠落
人の取締り申渡状 領主(欠落
人取締) 447

九 慶長期

堀直奇より逃散百姓の取締り申渡
状 領主(欠落人取締) 448

一〇 元和元年八月

山田隼人正より井口弥右衛門尉へ
扶持・知行申付状(二通) 領
主(知行宛行) 448

一一 元和三年二月

雲洞庵より雲洞村への山売買証文
土地(山売買) 449

一二 元和四年三月

石原九郎左衛門より栃窪村へ諸役
赦免の申渡状(二通) 領主(諸
役免除) 450

一三 元和四年四月

堀直奇から三国街道宿継への急文
箱添え状写 領主(触状) 450

一四 元和四年八月

永見志摩守より井口善八へ諸役赦
免の申渡状 領主(諸役免除) 452

二五 元和五年十月 星野又八より清水村へ諸役赦免の

申渡状 領主（諸役免除）……………452

二六 元和六年十月 福島正則より郷中村々への申渡状

領主（触状）……………453

二七 元和七年八月 福島正則家中より早川村郷藏につ

いての申渡状 領主（触状・郷

藏）……………454

二八 元和八年十一月 平岡次郎右衛門より清水越え取締

り申渡状（二通） 領主（欠落

人取締）……………454

二九 元和九年～寛文八年 片田村年貢皆済状（六通）……………455

三〇 寛永元年八月 富田五郎右衛門より清水村へ諸役

赦免の申渡状 領主（諸役免除）……………461

三一 寛永元年八月 富田五郎右衛門より姥沢村へ諸役

赦免の申渡状 領主（諸役免除）……………461

三二 寛永三年正月 本田七左衛門より井口善八へ諸役

赦免の申渡状 領主（諸役免除）……………462

三三 寛永九年十二月 渥美久兵衛より片田村への年貢納

所の定書 租税（年貢納入）……………462

二四 寛永十四年 関宿あて駄賃・継荷・宿料の規定

高札 交通（宿継ぎ）……………464

二五 寛永十七年十二月 清水村の年貢勘定帳 租税

（年貢納入）……………465

二六 寛永二十二年八月 郡奉行より清水口留の取締りと諸

役赦免の申渡状 領主（諸役免

除）……………465

二七 年不詳 堀直奇より井口善八へ塩沢通過に

よる書簡 領主（書簡）……………466

二八 年不詳 塩沢宿あて無手形伝馬禁止の触状

交通（伝馬）……………466

二九 年不詳 沼田藩家中より清水越え逃散人の

取締り申渡状 領主（欠落人取

締）……………467

三〇 正保二年八月 塩沢村の妻有六箇山への入会取決

め証文（二通） 山林（入会山）……………467

三一 正保二年八月 塩沢村の妻有八箇山への入会取決

め証文 山林（入会山）……………469

三二 正保二年八月 塩沢村の妻有六箇山への入会につ

三	正保二年九月	いて申上書 山論(入会山)……………	470
		舞子村と五郎丸村の村境取決めの 覚書 騒動(村境論)……………	471
三	慶安元年五月	片田村・竹俣村と小栗山村・六日 町の用水訴訟 騒動(用水)……………	472
三	慶安三年九月	上十日町村・島新田の一ノ沢山入 会掟書 山林(入会山)……………	473
三	慶安四年十月	関村あて伝馬役高赦免の覚書 交通(伝馬)……………	474
三	承応元年	三国街道宿場への駄賃請取り方覚 書 交通(宿継駄賃)……………	474
三	承応二年五月	高田藩領魚沼郡の城米積み下げ一 札 租税(廻米)……………	476
三	承応三年十一月	鳥類荷物の改めについて郡奉行覚 書 交通(口留番所)……………	477
三	明暦三年四月	三国街道宿場よりの清水新道開削 停止願い 交通(新道開削)……………	477
三	寛文八年四月	大門与兵衛より八木沢口留番所改 めの覚書 交通(口留番所)……………	478
四	寛文八年四月	大門与兵衛より清水口留番所改め の覚書 交通(口留番所)……………	479
		小杉新田の百姓役高書上帳 租 税(役高)……………	480
四	寛文九年六月	思川村より入会山利用についての 申上書 山林(入会山)……………	481
四	寛文十二年十一月	関村佐藤家の代々諸事覚書帳家 (日記)……………	482
四	正保期〜寛文期	塩沢村大塚家の店卸し目録綴り (八通) 商業(店卸)……………	495
四	寛文期〜延宝期	塩沢村大塚家より片田村小左衛門 への貸金証文綴り 金融(貸金) 蠟荷物の八木沢番所出判申請書 交通(口留番所)……………	498
四	延宝五年五月	天野沢村庄八の田畑屋敷の売買証 文 土地(田地売買)……………	501
四	延宝五年七月	天野沢村の銀山人足代銀の差出し 覚書 租税(人足役)……………	502
五	延宝八年八月	関宿あて駄賃・継人馬規定の高札	

裏書き	山論(山境)	527
元禄二年六月	清水村の村様子書上帳	村(村)
明細	528	
元禄二年七月	酒荷物の八木沢番所出判申請書	
交通(口留番所)	530	
元禄二年九月	妻有六箇山への入会に関する訴状	
山論(入会山)	531	
元禄三年七月	塩沢組蔵米川下げ運賃規約の覚書	
租税(年貢廻米)	532	
元禄五年一八年	天野沢村の庄屋役給をめぐる出入り一件(六通)	村方騒動(庄屋役)
533		
元禄五年一元禄十年	関村と上一日市村・小荊村の入会山論訴状(二通)	山論(入会山)
536		
元禄六年一八年	大肝煎井口七郎右衛門について塩沢組中三三ヶ村より訴状(四通)	
村方騒動(割元役)	540	
元禄七年五月	片田村・竹俣村と小栗山村の入会	
541		
元禄八年八月	山論裁許状	山論(山境)
551		
元禄八年八月	塩沢村より諸役負担についての願書	租税(役負担)
553		
元禄八年八月	蟹沢新田より凶作のため米拝借願	
い	社会(救恤)	554
元禄八年八月	島新田と小栗山村の入会山論裁許状	山論(入会山)
554		
元禄九年正月	中村の年貢米地払い願い帳	社
会(救恤)	556	
元禄九年	天野沢村の牛馬書上帳	農業
(牛馬書上)	557	
元禄十年	正月塩沢村寺院の門前家作者の請状(三通)	戸口(地借人請状)
560		
元禄十年十月	江州日野商人の売掛け金滞り訴訟	(二通)
商業(売掛金)	563	
元禄十一年十二月	天野沢村の中使勤め方の取決め証文	村(中使)
565		
元禄十二年五月	関東出来につき八木沢番所通手形	(二通)
交通(口留番所)	566	

七	元禄十二年十月	魚沼郡内天領の年貢米の上州河井	567
六	元禄十二年十月	河岸送り留帳 租税(年貢廻米)	567
六	元禄十二年十月	塩沢組年貢米の江戸輸送日記覚書	570
六	元禄十二年十月	租税(年貢廻米)	570
六	元禄十三年十二月	年貢米江戸輸送につき上州永井宿駄賃請取状 租税(年貢廻米)	574
六	元禄十五年	清水村・蟹沢新田五人組帳 村(五人組)	574
六	元禄十六年三月	塩沢村の火事焼失家屋・家財書上帳 社会(災害)	576
六	元禄十六年五月	宮田三左衛門の西国巡礼銭別見舞い覚帳 宗教(西国巡礼)	583
六	宝永六年〜七年	上十日町村と塩沢村の入会山争論(二通) 山論(入会山)	586
六	年不詳	三国峠から六日町までの街道筋様子書上帳 交通(街道)	592
五	貞享二年〜元禄九年	片田村・天野沢村・竹俣新田・中村宗門人別改 戸口(宗門人別)	597
五	慶長三年	雲洞村検地帳 領主(検地)	631
五	元和九年九月	塩沢町検地帳 領主(検地)	646
五	元禄八年六月	八木沢口留番所通手形の控え一覽 交通(口留番所)	678
五	元禄九年四月	八木沢口留番所通手形の控え一覽 交通(口留番所)	683
五	元禄九年七月	八木沢口留番所通手形の控え一覽 交通(口留番所)	690